

『血統の終止符』^{ベリオド} 千島染太郎 〔詩集・光の杖〕より

呪われた宿命を計算する
壁時計のアラビア数字

古い日の性慾を眠らす強烈なモルヒネ
原始林のように暗い脳裡に

血統の終止符^{ベリオド}を点じた

不透明な諦^{ナマリ}らめの獻^{コト}敵く肉体の
窓からこぼれ
やがて

アダムとイヴの幻に似た父母の裸像と
石の掌に踊るニヒルなメスの本能と
看護婦の瞳の中に氷結した白い羞恥が
生殖器を軸にしてゆるやかに廻転する
進化論のロジックに宿るかの憂鬱のように

青白い手術燈の光線^{ひかり}にぬれて

私は静かに
瞼を閉じた

麗しい人類の進化と

浄^{きよ}められた地上の幸福^{しあはせ}と

そして

孤独の私に残された

季節のない生涯を祈るために……